

議員氏名 (会派名)	質問した事項 (質問順)
うのうら まさなり 鶴浦 昌也 (創生会)	1 市長の政治姿勢 2 交流人口の拡大策 3 水道事業
おいかわ しゅういち 及川 修一	1 老人クラブ 2 市長の思う市政の現状と課題 3 農業政策
なかの たかのり 中野 貴徳	1 コミュニティの役割 2 観光施策
おざわ むつこ 小澤 睦子 (新志会)	1 ノーマライゼーションという言葉のいらぬいまちづくりの推進 2 陸前高田市地域防災計画
おおさか たかし 大坂 俊	1 未来へつなぐ東日本大震災の事実と教訓 2 地域の伝統と文化を大切にすること
おおつぼ りょうこ 大坪 涼子 (日本共産党)	1 市民生活を守る緊急の物価対策 2 「はまかだ」運動はじめ今後の市民の健康と支え合いとまちづくり 3 高齢者のための配食サービス事業の拡充
きむら あきら 木村 聡	1 後期基本計画の策定における今後のまちづくりの構想 2 孤独・孤立対策の意義
いせ しゅん 伊勢 純 (日本共産党)	1 本市の子育て支援策 2 農産加工力の強化 3 林業振興策等 4 漁業振興策
ささき かずよし 佐々木 一義 (創生会)	1 農業の再生 2 コロナによって変化した社会への対応と健康 3 市民の命を守る活動と機材の整備
おおわだ かよこ 大和田加代子 (碧い風)	1 公契約 2 陸前高田市人口ビジョン及び第2期まち・ひと・しごと総合戦略
いとう ゆういち 伊藤 勇一 (碧い風)	1 国道343号改良と新笹ノ田トンネルの事業実施 2 複式学級の在り方 3 防災対策
ふじくら たいじ 藤倉 泰治 (日本共産党)	1 沿岸漁業振興とマグロ漁獲枠 2 本市の奨学金制度の拡充 3 大雨、洪水、土砂災害対策

## 外国人観光どう対応

### 民間と連携して拡大へ



**質問** 法律上で、新型コロナウイルス感染症の位置付けが引き下げられたことにより、全国各地で交流人口の拡大

**答弁** 広域自治体や旅行会社、JR東日本などの民間事業者と連携しながら「防災・減災を学ぶフィールド」としての震災関連施設を活用し、本市の魅力である海、山、川などの体験型コンテンツを組み合わせ外国人旅行者の受

**出ている。本市での導入をどう考えているか。**  
**答弁** 自治体が導入するメリットは、文書作成や企画立案などの業務の際、他の自治体の例をはじめ、国、県の情報を活用できることなどが挙げられる。しかし、情報漏洩や虚偽情報が混在する恐れがあるなどの報道もある。今後、



外国人も多い震災津波伝承館



鶴浦 昌也  
(創生会)

## 人工知能どう生かす

**質問** 行政事務の効率化を図るため、全国の自治体の中には対話型人工知能「チャットGPT」を活用する動きが

**全国的動向を注視しながら慎重に検討していきたい。**  
**公約実現に向けては**  
**質問** 市長が掲げる公約実現に向けた取り組みはどう

民文化会館、運動施設などを大学生の学びの場に提供できないかと考えている。また、雇用の創出面では、ある分野のトップ企業から「関心がある」との話を受けており、多少の時間はかかると思うが、しっかりと取り組んでいきたい。

## 老人ク存在意義は

### 高齢者の社会活動の場



**質問** 老人クラブの存在意義や市との連携をどう考えるか。

**答弁** 高齢者が地域や社会

で活躍できる場として、その一翼を担っていただいている。市が実施する保健・介護事業等とも連携が図られている。

**質問** 老人クラブ活動の阻害要因として、免許証返納者の交通の確保などがあるが、その対応への考えはどうか。

**答弁** 高齢者の経済状況や身体的な状況などと合わせ、要因に対する働きかけをしていくことが重要と捉えている。

**質問** 高齢者が社会参加するための受け皿となっている老人クラブへの支援の考えはどうか。

**答弁** 市老人クラブ主催の「市長と語る会」が予定されているので、現状や課題を共有し、支援を検討していく。

## 市の経済対策は

**質問** 現在の本市の経済状況をどのよう捉えている

**質問** 米農家への支援策はどうか。



屋内スポーツで交流を深める老人クラブ会員

## 米農家への支援は

**質問** 米農家への支援策はどうか。

**答弁** 物価高騰により市民生活や事業者経営などが厳しい状況にある。市内事業者に燃油価格高騰対策の補助金と事業継続補助金を予定している。また、プレミアム付き商品券の販売を予定している。

**農家の現状と見通しはどうか。**  
**答弁** 米需要が減少する見込みであり、販売先確保による収入向上と作業の負担軽減につながる品目の作付けが重要だと考える。農業者の声を聞きながら国に働きかけ、JA、改良普及センター、再生協議会と連携しながら転作物の普及に努める。